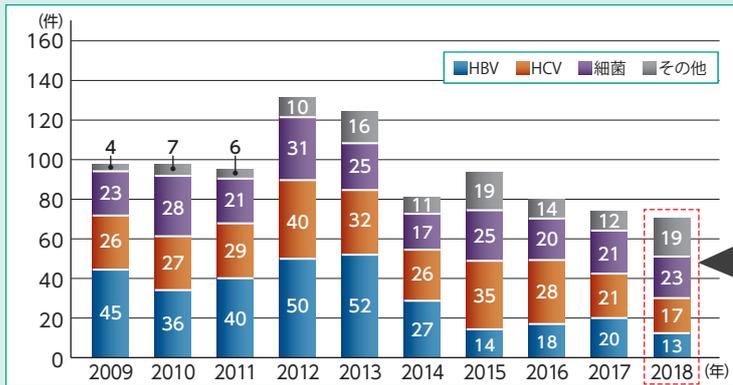




輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例-2018年-

輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2018年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例(自発報告)及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の検体等にウイルス核酸や細菌が検出され、輸血による感染と特定された症例は、細菌4件、HBV1件、HEV7件でした。

輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された症例数の推移と、2018年に報告された病原体別の症例数及びその解析結果



病原体	報告件数	特定
HBV	13	1
HCV	17	0
細菌	23	4
CMV	8	0
HEV	10	7
ヒトパルボウイルス B19	1	0
計	72	12

細菌感染が特定された4症例は、いずれも血小板製剤によるものでした。HBV感染が特定された症例は、使用された製剤の個別NATは陰性でしたが、その後の献血時にHBVが陽性となり、遡及調査の結果判明した症例です。その他に分類したもののうち感染が特定されたものは、HEV7症例でした。

症例概要(献血血液の検体等に病原体等が検出され、輸血による感染と特定された症例)-2018年-

細菌

●自発報告:輸血による細菌感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤(採血年月)	年齢	性別	症状	発現時間(投与開始後)	輸血後の検査結果		患者転帰
							患者血液	輸血用血液製剤	
1	再生不良性貧血	Ir-WPC-LR (2018.1)	50代	女	悪寒、発熱、意識レベル低下	8時間30分*1	陰性 (抗生剤投与後の血液培養)	<i>Streptococcus dysgalactiae ssp. equisimilis</i>	回復
2	B細胞性リンパ腫	Ir-PC-LR (2018.3)	80代	女	悪寒戦慄、発熱、血圧上昇、頻脈	40分	<i>Staphylococcus aureus</i>	<i>Staphylococcus aureus</i>	軽快
3	B細胞性リンパ腫	Ir-PC-LR (2018.5)	60代	男	悪寒、発熱、せん妄、便失禁、SpO2測定不可、血圧低下、頻脈	75分	<i>Streptococcus dysgalactiae ssp. equisimilis</i>	<i>Streptococcus dysgalactiae ssp. equisimilis</i>	回復
4	急性骨髄性白血病	Ir-PC-LR (2018.8)	10歳未満	女	悪寒、発熱、血圧低下、頻脈	75分	<i>Escherichia coli</i>	<i>Escherichia coli</i>	軽快

*1 投与終了後からの時間

細菌感染が疑われる場合の対応について

- ・細菌感染が疑われる症状がみられた場合には直ちに輸血を中止して適切な処置を行ってください。
- ・使用済み製剤バッグを適切に保管^{注)}し、最寄りの赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。
- ・使用済み製剤バッグの細菌培養試験の実施については、無菌的に検体採取が可能な場合をお願いします。
- ・細菌感染が疑われた場合は原因究明のために、使用済み製剤バッグをご提供ください。

注)輸血セットのクランプを固く閉め、輸血部門に返却をお願いします。その後、点滴筒の上下をチューブシーラーでシール(チューブシーラーがない場合は鉗子等で確実に結紮)し、バッグごとビニール袋に入れて清潔に冷蔵保管(冷凍は不可)してください。

HBV

● 献血後情報：献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により判明した症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤 (採血年月)	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	悪性リンパ腫 サルコイドーシス	Ir-PC-LR (2017.11) ^{*2}	60代	男	HBV-DNA HBs 抗原 HBs 抗体 HBc 抗体	陰性	HBV-DNA	11週	*3	*3	未回復

*2 当該献血はHBV-DNA陰性、2週間後献血時にHBV-DNA陽性 *3 ALTの上昇がない、または比較データがない症例

HEV

● 自発報告：輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤 (採血年月)	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	多発性骨髄腫	RBC-LR (2017.11)	60代	男	なし	/	HEV-RNA IgA-HEV 抗体	11週	1142	77日	回復
2	B細胞性リンパ腫	Ir-PC-LR (2017.1)	70代	男	なし	/	HEV-RNA	27週	871	182日	軽快
3	胃癌	Ir-RBC-LR (2018.4)	70代	男	IgA-HEV 抗体	陰性	IgA-HEV 抗体	8週	1148	55日	回復
4	大動脈弁閉鎖不全	FFP-LR (2017.5)	70代	男	HEV-RNA IgA-HEV 抗体	陰性	IgA-HEV 抗体	14週	1120	97日	軽快
5	急性骨髄性白血病	Ir-PC-LR (2018.9)	60代	男	なし	/	HEV-RNA	14週	849	93日	軽快

● 献血後情報：試行的HEV-NATの陽転化情報に基づく遡及調査より医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤 (採血年月)	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	再生不良性貧血	Ir-PC-LR (2018.8)	70代	女	HEV-RNA IgM-HEV 抗体 IgG-HEV 抗体	陰性	HEV-RNA	4週	410	68日	軽快

● 献血後情報：献血者健康情報に基づく遡及調査より医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤 (採血年月)	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	大動脈弁閉鎖不全症	Ir-PC-LR (2018.7)	70代	女	HEV-RNA IgM-HEV 抗体 IgG-HEV 抗体	陰性	IgM-HEV 抗体 IgG-HEV 抗体	12週	137	64日	軽快

肝炎ウイルスの感染リスクについて

- ▶ 輸血用血液製剤は、HBV、HCVの肝炎ウイルス検査には適合していますが、供血者がウインドウ期等にあることによる感染リスクが存在するため、輸血用血液製剤の使用によりHEV、HBV、HCV等のウイルスに感染し、肝炎を発症することがあります。
- ▶ HBV、HCVについては、添付文書中に感染が疑われる場合等には、患者の輸血前後の肝炎ウイルスマーカー検査等を実施し、患者の経過観察を行うことと記載していますが、HEVについても必要に応じてウイルスマーカー検査等を実施し、患者の経過観察を行ってください。
- ▶ 肝炎ウイルスの感染が認められた、または肝炎の症状があらわれた場合には、適切な処置を行ってください。なお、原疾患の治療等のために免疫系の抑制を伴う処置が必要な場合は、肝炎ウイルス感染による肝障害等のリスクを適切に考慮してください。
- ▶ HEV感染を疑う場合は、検査方法や治療方針等を必要に応じて肝疾患診療連携拠点病院等の肝臓専門医に相談することも考慮してください。
- ▶ ウイルス感染が疑われる場合は、日本赤十字社への情報提供にご協力をお願いします。

日本赤十字社におけるHEVに対する安全対策について

- ▶ 献血会場において、HEVの感染源と受血者への感染リスクを周知するとともに、献血者への問診を徹底しています。
- ▶ HEVに感染するリスクのあるブタ、イノシシ、シカの肉や内臓を生又は生焼けで食した方については、摂取した時点から6か月間は献血をご遠慮いただいています。
- ▶ 北海道内で採血された献血血液に対して現在試行的に実施しているHEV検査 (NAT) を、国内で採血されたすべての献血血液に対して実施する方向で検討を進めています。

輸血用血液製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合には、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者の検体等の提供をお願いすることがあります。なお、使用された製剤及び患者の検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

輸血情報 1907-167

〈発行元〉

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課
〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号
※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター
医薬情報担当者へお願いします。



日本赤十字社 医薬情報ウェブサイト

製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬情報



スマートフォン・タブレットにも
対応しています。

